

千利狸の呟き

部屋の書類は年々溜まっていく一方である。医師会や行政からの文書の他、文献、薬のパフレット、研究会の資料、領収書、契約書、税理士、社労士関係書類、電化製品の説明書などなど。当初はファイルに整理していたが、最近では未整理のままカゴに山積みになっていて、必要な書類が見つからないこともよくある。整理し捨てるにも後で後悔しそうなものもあり、スキャナー『Scansnap』と情報統合ソフト『Evernote』を購入しデータ化したのち書類を廃棄することにした。

まずは『Scansnap iX 500』で紙媒体のPDF化。A4サイズだけでなく名刺、postitサイズまでスキャン可能で、25枚/分の速さでスイスイ進む。以前のScansnapにみられた複数重送やスキャン時の光の差し込みなどのトラブルもほとんどない。データは無線LAN経由で各デバイスに保存される他、クラウド（Scansnap cloud）にも保存可能である。

『Evernote』はあらゆるデータを統合するオンラインメモツール。紙情報は『Scansnap』で、Web情報はブラウザのメニューバーにある『Evernote Web clipper』で、その他画像、スライド、音声など、取り込んだあらゆる情報を同じノート内にまとめて記録できる。『Evernote』のメリットは、OCRで文字を認識し検索が可能で、テキスト形式の文字だけでなく、Webページやスマホで撮った画像の文字も検索可能なこと。もう一つは無線LANさえあればいつでもどこでもクラウドから情報検索が可能になる。『Evernote』にさえ取り込んでおけば、本棚のどこかにあった文献も、委員会の資料も、昔の契約書もいつでもどこでも内容を検索し確認で、「あの文献はどこだっけ？」も「医師会からきたあの資料はどこだっけ？」も一切なくなり、会議中や発表直前にも資料を確認できる。費用は毎月60MB（A4サイズ120枚程度）までなら無料、累積では無制限にクラウドに保存が可能。年5,200円のプレミアム版だと毎月最大10GBと実質容量

～ペーパーレス化～

I T 狸

制限はない。

名刺もデジタル化によりペーパーレスが可能となった。数百枚も溜まると整理も、必要な名刺を探すのも一苦勞である。この名刺管理アプリのシェアの80%を占めるのが『eight』。通常名刺データはスキャン、写真で取り込んだ後OCRによりデータ化するが、OCRだけでは間違っただけの変換がけっこう多い。『eight』は人の目で確認後登録されるので誤登録がない。しかも無料で登録枚数制限もなく、100枚程度なら1～2日で登録される。国内の登録ユーザー数はすでに100万人を超え、名刺情報によるネットワーク作りがなされ、Facebookのように「お友達ですか？」と名刺交換リクエストまでくる。『eight』使用後は名刺の整理、検索に困ることはなくなった。

Faxも『eFax』によりメールで送受信可能となり、PCやスマホでFax内容がチェックできる。電話料金は発生せず、定額1,500円で送受信それぞれ毎月150ページまで可能。薬局への処方箋Faxにもトラブルなく使用できたためFax機器は廃棄した。ペーパーレスには、いらぬ紙媒体を捨てるのと同様に不要なプリントアウトをしないことも重要。

2005年にはe文書法が施行され、民間事業者における文書や帳簿の電子保存が容認され、原本の廃棄が可能となった。また2016年の電子帳簿保存法改正により国税に関する書類（領収書、請求書、契約書等）も電子保存が容認されている。また本から電子書籍へ移行も進み、教育分野においてもタブレット端末を使ったデジタル教科書が普及しつつある。全国の医師会理事会でも同様に、2010年のデータによると県医師会理事会14%は既にペーパーレス会議であり、現在はペーパーレスに加えてデバイスフリーの会議が広まっているらしい。郡市医師会のペーパーレス会議は全国的にはまだ少ないが、当医師会でも各自がiPadを持参して会議する日はそう遠くない。